

定住者等の増加を図る
「沖2号住宅」完成



▲キッチン、充実した収納と3個口IHクッキングヒーターなどを備えています

只見町での定住等の促進を目的とした「沖2号住宅」(只見字沖)が完成し、1月31日に事業者の積水ハウス株式会社から町へ引き渡されました。町内では初となる一括発注の住宅です。

間取りは1DKで1階部分は車庫(車1台分)となっています。

玄関は、ダブルロックや録画機能付きインターホンなどの防犯対策が施されています。また昇降式の室内洗濯物干しユニットや浴室乾燥機を備えるなど、機能が充実した住宅となっています。

なお、入居募集などについては町民生活課(82-5100)にお問い合わせください。

只見線復興応援のために
合同会社メーデルリーフが寄附



▲合同会社メーデルリーフは、毎年、只見線復興のための寄附をされています

合同会社メーデルリーフの目黒道人さん、三瓶彰治さん、原田郁子さんが、2月15日に寄附のために役場を訪ねました。

合同会社メーデルリーフは「鉄道風景画家「松本忠」只見線マグネットステッカー」などの只見線関連グッズを販売し、その売上から金13万3,380円を只見線の復興応援のため町に寄附されました。

寄附は、只見線復興のために有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

皆さんの交通安全への心がけが
表彰につながりました
「福島県交通安全対策協議会長表彰」伝達



▲深谷会長から渡部町長(町交通安全対策協議会長)に伝達されました

福島県と県交通安全対策協議会、県警察本部が主催する市町村別交通事故防止コンクールにおいて、只見町が「福島県交通安全対策協議会長表彰」に選ばれ、2月14日に伝達式が行われました。

伝達式では南会津地方交通安全対策協議会の深谷一夫会長(南会津地方振興局長)が「町民の皆さんと町や警察など関係機関が一丸となり積極的に交通安全対策に取り組まれた結果です。引き続きご協力をお願いします」とあいさつしました。

関係人口の増大を目指す
「観光まちづくり連携協定」締結



▲協定式は淑徳大学東京キャンパスで開かれ、山口学長と渡部町長が署名しました(写真提供:淑徳大学)

淑徳大学(千葉県千葉市)と只見町は、2月20日に「観光まちづくりに関する連携協定」を締結しました。

本協定では、「町における淑徳大学の教育活動の実施に関すること」や「観光まちづくり・地方創生に資する協働事業に関すること」、「人的交流や研究交流、関係人口の増大に関すること」など7つの連携事項をあげており、町外の若い世代の視点で、町の観光開発や地産地消メニュー開発などに繋がることを期待しています。